

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		SMiDデイサービスにじ 放課後等デイサービス				公表日	令和8年4月1日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	75%	25%	利用者の人数によっては狭く感じることもあるが、工夫して対応している。	小さい子から大きい子がいる。寝ている子と動く子と様々なため、スペースの確保が必要。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	50%	50%	職員の休憩時や送迎などで人手が足りない時間帯はあるが、職員同士で声をかけ合い、協力して支援体制を整えている。	送迎や休憩時間帯に職員数が不足する場面があるため、職員確保や金体制の工夫を行っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	75%	25%			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	75%	25%	毎日掃除機がけや清掃、おもちゃの消毒、使用したタオル類はその都度洗濯し、清潔なものを使用している。手すり、窓、車内など手に触れるところは除菌スプレーで消毒を行っている。	利用児が多い土曜、祝日などは特にこまめな清掃や環境整備を行い、安心して過ごせる環境づくりに努めている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%		少人数の職員体制のため意見交換がしやすく、日々の業務の中で振り返りを行い、次の支援や業務改善につなげている。	記録として整理することや、改善内容を職員全体でより共有していく仕組みづくりが今後の課題である。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	50%	50%	日ごろから保護者のみなさまとの連絡や会話を通して意見や要望を聞き取り、業務や支援の改善につなげるよう努めている。	開所1年目であり、正式な評価を受ける機会がなかったため、今後は頂いた意見を参考に保護者のみなさまの意向に沿えるよう業務改善を行っていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	50%	50%	朝の打ち合わせや年1回の面談で職員の意見を共有し、日々の業務改善につなげている。	職員から出た意見や改善内容について、記録として整理し、継続的に業務改善につなげていく仕組みづくりが今後の課題である。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	25%	75%	現在は第三者による外部評価は実施していないが、保護者のみなさまや関係機関からの意見を参考に業務改善に努めている。	今後、必要に応じて第三者による外部評価の活用についても検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%				
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	75%	25%			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	50%	50%	計画を作成後、紙面にて職員全員に回覧し共有している。	計画内容をもとに、具体的にどのように支援していくかを職員全体で共有し、統一した支援につなげていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	75%	25%			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	75%	25%			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	50%	50%	保育士中心に活動プログラムや季節のイベント、製作などの企画を行っている。	今後は職員全体で意見を出し合いながら活動内容を検討し、チームでの支援につなげていく。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	50%	50%	季節の行事や製作活動、外出（公園への散歩、ドライブ、園庭でのシャボン玉遊びなど）を取り入れ、活動内容が固定化しないよう工夫している。	職員間で意見を出し合いながら、さらに活動の幅を広げていく。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	50%	50%	季節のイベントやお散歩、スヌーズレンなど集団活動を取り入れながら、製作活動は子どもの体調や状況に応じて個別の関わりも大切にし、支援を行っている。	子どもの特性に応じて個別支援と集団活動をバランスよく組み合わせ支援が行えるよう、職員間で共有しながら工夫していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	50%	50%	朝の打ち合わせで送迎の確認や当日の予定を共有し、欠席連絡や子どもの状況についても職員間で伝達している。	支援内容や職員の役割についても事前に共有できるように、打ち合わせの内容をさらに充実させていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	50%	50%	支援終了後の振り返りが難しい場合は、翌朝の打ち合わせで気づいた点や子どもの様子を共有している。	送迎や清掃などで支援終了後の打ち合わせ時間を確保することが難しい日もあるため、振り返りの時間をより確保していくよう工夫していく必要がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	50%	25%	日々の支援について記録を行い、子どもの様子に変化があった場合は職員間で情報共有するよう努めている。	記録の方法や内容に職員間で差があるため、記録をより徹底し、支援の振り返りや改善につなげていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	75%	25%		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	50%	50%	製作活動やお散歩、外出などを取り入れながら、子どもの状況に応じた活動を行っている。	4つの基本活動を意識しながら、活動内容を組み合わせ支援が行えるよう、職員間で共有、工夫していく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	75%	25%		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	75%		学校とは必要に応じて情報共有を行い、子どもの状況について相互理解に努めている。	現在は小学校中学年から高校生の利用が中心であり、保育園などの連携の機会はないが、必要に応じて関係機関との情報共有に努めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	25%	50%	現在は学校卒業後に他事業所へ意向する利用児さんはいない。	今後、学校卒業後に福祉サービス等へ移行する利用児さんがいる場合には、関係機関と連携し必要な情報提供を行っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	25%	50%		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		100%		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	50%	50%	年一回、自立支援協議会に参加し、地域の関連機関との情報共有や連携に努めている。	協議会で得た情報を職員間で十分に共有できるよう機会を設けていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		75%	現在は家族等が参加できる研修の機会や情報提供は行っていない。	今後は保護者のみなさま向けの研修や情報提供の場を設けたり、玄関など目につきやすい場所に資料を掲示するなど工夫していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		100%	現在は実施していない。	ニーズを踏まえ、必要に応じて兄弟児も含めた交流や関りの機会について検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	50%	50%	L I N E等を通じて受け付け、迅速に対応できるよう努めている。	記録や対応方針を職員に周知し、統一した対応ができる体制を整えていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	75%	25%		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	25%	75%	代表が地域の祭りや行事など地域活動に参加し、地域との関りを持つよう努めている。	季節や体調に配慮しつつ、地域との交流の機会を検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	50%	50%	職員に対してマニュアルに基づいた研修を実施している。	家族へのマニュアル周知や研修は行っていないため、今後は必要に応じて家族への周知や情報提供の機会を設けていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的な避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	50%	50%	利用児も含め、避難訓練を実施し、災害時の対応手順の確認に努めている。	職員間で避難手順の共有や確認体制の整備をさらに進める必要がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	75%	25%		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	75%	25%		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	75%	25%		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	75%	25%		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	25%	50%	身体拘束が必要な対象者はいないが、必要になった場合に備え、対応の基本方針や計画への記載を検討している。	対象者がいないため、家族への説明や計画への明記は未実施。必要に応じて整備する。	